

愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果（清須市分）

I. 被害量の想定結果のまとめ

1. 調査対象とした地震・津波

南海トラフで繰り返し発生する大規模な海溝型地震は、本県に与える影響は極めて大きく、その発生確率や被害規模から、本県としてまず対策を講ずべき対象として考慮するものである。

南海トラフで発生する地震・津波には多様性があり、予測困難なものがあるが、効果的な防災・減災対策の実施に繋げていくため、南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうちで過去に実際に発生したものを参考に想定することとした。

〔A 過去地震最大モデル〕による想定

なお、「命を守る」という観点で、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波についても、補足的に想定することとした。（〔B 理論上最大想定モデル〕による想定）

〔A 過去地震最大モデル〕

- 南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで規模の大きいもの（宝永、安政東海、安政南海、昭和東南海、昭和南海の5地震）を重ね合わせたモデルである。
- 本県の地震・津波対策を進める上で軸となる想定として位置付けられるものであり、〔B 理論上最大想定モデル〕の対策にも資するものである。

〔B 理論上最大想定モデル〕

- 南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波を想定。千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度が低いものである。
- 今回の調査で想定した〔B 理論上最大想定モデル〕の検討ケースは、国の「南海トラフの巨大地震モデル検討会」による震源及び波源モデル（平成24年8月29日公表）の内、次のものである。
 - ・ 国の地震ケース（5通り）の内、陸側ケース及び東側ケース
 - ・ 国の津波ケース（①～⑪）の内、津波ケース①、⑥、⑦、⑧、⑨
- 本県の地震・津波対策を検討する上で、「命を守る」という観点で補足的に参照するものである。

2. 被害量の想定結果

(1) 建物被害（全壊・焼失棟数、冬夕方18時）

想定地震の区分	過去地震最大モデル		理論上最大想定モデル	
	愛知県	清須市	愛知県	清須市
堤防等の条件	被災する（50%～75%沈下）		被災する（75%沈下）	
揺れ	約47,000棟	約90棟	約242,000棟	約1,700棟
液状化	約16,000棟	約200棟	約16,000棟	約200棟
浸水・津波等	約8,400棟	被害少	約22,000棟	被害少
急傾斜地崩壊等	約600棟	被害少	約700棟	被害少
火災	約23,000棟	約20棟	約101,000棟	約1,900棟
合計	約94,000棟	約300棟	約382,000棟	約3,900棟

注）端数処理のため合計が各数値の和に一致しない

(2) 人的被害（死者数、冬深夜5時）

想定地震の区分	過去地震最大モデル		理論上最大想定モデル	
	愛知県	清須市	愛知県	清須市
堤防等の条件	被災する（50%～75%沈下）		被災する（75%沈下）	
建物倒壊等	約2,400人	被害少	約14,000人	約90人
浸水・津波等	約3,900人	被害少	約13,000人	被害少
急傾斜地崩壊等	約50人	被害少	約70人	被害少
火災	約90人	被害少	約2,400人	約20人
合計	約6,400人	被害少	約29,000人	約100人

注）端数処理のため合計が各数値の和に一致しない

(3) ライフライン被害（発災1日後、冬夕方18時発災）【想定地震・過去地震最大モデル】

	愛知県	清須市
上水道（断水人口）	約6,306,000人	約65,000人
下水道（機能支障人口）	約3,207,000人	被害少
電力（停電軒数）	約3,406,000軒	約30,000軒
固定電話（不通回線数）	約1,094,000回線	約6,700回線
携帯電話（低波基地局率）	81%	80%
都市ガス（復旧対象戸数）	約169,000戸	被害少
LPGガス（機能支障世帯数）	約162,000世帯	約700世帯

(4) その他の主な被害【想定地震・過去地震最大モデル】

	愛知県	清須市	
避難者数 （冬夕方18時発災）	1日後	約718,000人	約1,900人
	1週間後	約1,547,000人	約17,000人
	1ヵ月後	約1,130,000人	約38,000人
帰宅困難者数（昼12時発災）	約858,000人～約930,000人	約5,900人～7,300人	
災害廃棄物等（冬夕方18時発災）	約20,238,000t	約43,000t	